

みんなの「なんな一の?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信毎こども記者ニュース

こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.35

精密! 時計作りの技 すごいぞ

みんなの家にはどんな時計があるかな? 取材教室「たんけん 信濃のわざ~時を学ぼう」を3月26日、塩尻市のセイコーエプソン塩尻事業所で開きました。同社の時計技術のエキスパート、竹岡一男さん(55)=安曇野市出身=を講師に、時計の歴史を学んだり、高級時計の工房を見学。小さな部品をこつこつとていねいに組み立てていく、時計作りの技にせまりました。

白鳥 達也記者 小諸市 中! 本当に30万円?!

ほくは、どうしてうで時計が30万円もするのかふしぎでした。でも、取材で、どうしてかがわかり、逆に安いくらいだと思いました。

一番の理由が、一つ一つ、手作業で作っていることです。手作業と言っても、流れ作業ではなく、一人で一つのムーブメント(時計の心臓の部分)を、最後まで作っています。もうまく動かなければ、作った本人がミスを確認し、技術が上がるようになっていきます。

時計一つに、多くの時間をかけて、ていねいに大切に作っているのだから、本当は、ねだんをつけられないくらいに思いがこもっています。



植木 みずほ記者 塩尻市 5年 時計作りのひみつ

機械式時計を作る部屋では、机の前からきれいな風がふいてきて、ごみが机におちないようにしています。ゆかには、あながあいていて、ごみをすくいこみます。ごみやきずが少しでも入ったりすると、時計がだめになってしまうからです。

そして、全部の時計に、マイナス10度と、プラス50度の気温で、正しく動くかをけんさします。時計を作ることはとてもたいへんだと思いました。

私も、時計を作ったことがあるけれど、少しきずが入ってしまいました。でも時計を作る人たちはじょうずに作るのだから、すごいと思いました。時計のひみつがたくさん知れてよかったです。



竹岡 一男さんの話

みなさんが、知りたことに向かって、熱心に話を聞き、積極的に取り組んでいきます。今回感じたことを大事にして、時計を大切にしたり、長野県のものづくりに興味を持つていってください。この道に進みたいと感じたら、小学生でも、スタンプを切るのと同じくらい、自分が思った時がベストだと思っています。

内藤 吉彦記者 松本市 6年

一番すごいと思ったことは、紀元前3400年ころに、もう時間を調べる方法があったことです。それから、日時計、水時計など、いろいろな時計が作り出されましたが、どれも欠点があり、正確ではありませんでした。

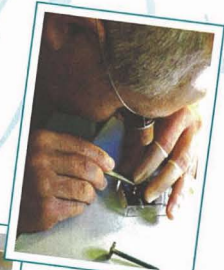
1582年、ガリレオ・ガリレイが「ふりこの原理」を発見し、今の時計のしくみのもとができて、どんどん正確な時計がうまれていったそうです。ガリレオの発見が、今も使われ続けているってすごいなと思いました。

私の自覚まし時計も腕時計も、すぐ時間が分かるデジタル時計です。この見学でいろいろな時計のことを知り、世界で一つしかない私の時計がいつかほしいなと思いました。



音琴 光里記者 松本市 1年

はじめて、とけいのちいさいぶひんをさわってみました。とうめいのおきものに、あながあいていて、そこに、このぶひんを8こ、ピンセットでいれました。わたしはしんけんにやりましたが、まわりのみんなもしんけんでおどろきました。こうじょうのおにいさんが、わたしのところに来て、「すごいね♥」といってくれました。うれしかったです。



正確にていねいに部品を組み立てていく時計作りのお話を聞きました=セイコーエプソン塩尻事業所

10月の技能五輪全国大会で「時計修理」の競技に出場するエプソン社員に聞きました

中野 祐希さん(20) 携帯電話があれば腕時計はいらない、という声もある中で、若いみなさんに時計のことを知ってもらうのはとても大事だと思いました。優勝を目指して自分の技術を上げ、時計作りで貢献したいです。

西中 卓也さん(21) 時計という小さな世界でも、いろんな人に興味を持ってもらえる。技能五輪で、必ず優勝して、時計の良さを発信したいです。



今回の取材教室は

「たんけん 信濃のわざ 水引編」

5月12日(土) 午後1時~4時半

- 【場所】 飯田市松尾公民館
- 【講師】 飯田水引協同組合のみなさん
- 【定員】 20人程度 ※先着順、定員になり次第しめきり
- 【内容】 水引の今や歴史を取材。水引のもとをつくる工場もいくよ。

